

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4161090032
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団
事業所名	グループホーム シオンの園「くつろ樹」
訪問調査日	平成 19 年 10 月 25 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 20 日
評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4161090032
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団
事業所名	グループホーム シオンの園「くつろ樹」
所在地	佐賀市大和町大字久留間3865-1 (電話) 0952-51-2101

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号
訪問調査日	平成19年10月25日
評価確定日	平成19年12月20日

【情報提供票より】(平成19年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 9 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	3人, 非常勤 6人, 常勤換算 5.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.5歳	最低	77歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	溝口クリニック、鮫島病院、栗林歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大和町の西部に位置し、周りには田んぼやみかん畑等が広がっており、四季折々の景色が楽しめる自然環境に恵まれたホームである。法人母体の特別養護老人ホームは二十有余年前に認知症専門の施設として開設されており、その運営の実績がホームにも活かされている。職員は現状のケアに満足することなく、日々、サービスの質の向上を目指しており、今回の評価にも真摯に取り組んでいる。来年はISO取得にも臨む予定である。日常の支援では常に入居者を敬い、何事も無理強いすることなく、その人のペースを尊重しながら個人の有する力の発揮に取り組んでいる。入居者と職員、及び、入居者同士の間には家族のような温かい関係が構築されており、会話の中からもそのことが窺い知れる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>一つの課題については、職員会議や運営推進会議で諮り、参加者の意見等を参考にしながら改善シートを作成し、改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が全職員に評価の意義や目的を伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの行事や運営状況の報告、及び、参加者からの提案等について協議し、提案や意見については速やかに対応しサービス向上に活かしている。次回の会議では今回の評価結果を報告する予定である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>口頭での意見に関しては、苦情受付書を作成し速やかに対応している。なお、ホームの玄関に苦情受付箱を設置したり、法人内にはオンブズマン委員会を設けて苦情等の表出の機会としている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人として自治会にも加入しており、春夏の地区のお祭りや行事等には入居者と共に参加をしている。また、近隣の方々による草刈や民生委員の方々によるボランティア訪問が行われたり、地域の人達を対象とした出前講座にも取り組んでいる。今後も、入居者の地域に根ざしたその人らしい生活拡充のため、地域との連携が一層深まることを期待したい。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の経営理念や処遇モットーを基盤にし、ホーム独自の理念をつくりあげ、機会あるごとに見直しも行われているが、地域密着型サービスの果たすべき役割を反映するまでには至っていない。	○	現在のホームの理念に加え、地域密着型サービスの役割を目指した理念の構築が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や勉強会等の折に話し合っって共有を深め、日々、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として自治会にも加入しており、春夏の地区のお祭りや行事等には入居者と共に参加をしている。また、近隣の方々による草刈りや民生委員の方々によるボランティア訪問が行われたり、地域の人達を対象とする出前講座にも取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が全職員に評価の意義や目的を伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価で見出された課題についても、改善計画を立てて改善に取り組んでいる。来年は、ISO取得にも臨む予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはメンバーの積極的な参加が得られており、意見や助言等も多く、有意義な会議が行われている。なお、評価の結果も報告し、改善に向けた取り組みには意見をもらいサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは気軽に相談できる関係にあり、折に触れ、情報交換や課題解決のための相談をし、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会も多く、面会時には密に報告をし、時には電話でも伝えている。なお、季刊誌を発行したり、ホーム内に入居者の写真を掲示する等情報提供に努めている。預り金の使途については、随時領収書や明細を添えて報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	口頭での意見等に関しては、苦情受付書を作成し速やかに対応している。なお、ホームの玄関に苦情受付箱を設置したり、法人内にはオンブズマン委員会を設けて、苦情等の表出の機会としている。家族に配付される重要事項説明書にはホームの苦情申し立て担当者のみが明示されている。	○	利用者に配付される重要事項説明書等に、法人の窓口や公的な相談窓口等も明示されれば、利用者への一層のサービスに繋がるものと期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの職員による支援の大切さを理解しており、必要最小限の人事異動となるように配慮している。職員と触れ合う入居者の表情からも温かい馴染みの関係が感じ取れる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は一丸となってサービスの質の向上に取り組んでおり、研修会等への参加も積極的で、職員自から希望を出し外部研修会にも参加している。なお、受講後は、他の職員に伝達を行いサービスの向上に活用している。法人内には研修委員会が設置されており、年間計画をたてて研修に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に属しており、研修会等の折には他施設の職員とも情報交換を行い、サービスの向上に活用している。今後は、近隣のグループホームとの相互訪問や合同の勉強会にも取り組む予定である。また、法人内には3ヶ所のグループホームがあり、折に触れ、入居者共々相互訪問を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学をしてもらったり、入所当初は家族の面会を頻回にしてもらう等の工夫をしている。また、入居者の多くが隣接するデイサービスやショートステイの利用者であり、周りの光景には馴染まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作りや漬物付け、干し柿作り等の時には入居者の昔ながらの知恵を発揮してもらっている。また、年月の経過と共に職員と入居者、及び、入居者同士の間には家族のような思い合う関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者の意向の把握を心がけており、言葉かけや表情の変化等とおして確認している。なお、難聴の入居者とは筆談で意思確認を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が個性や力を発揮しながらその人らしく暮らせるよう本人や家族の意向や希望を確認し、かつ、職員間の情報交換を密にしながら介護計画を作成している。なお、定期的な見直しの会議には本人や家族にも参加をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期的な見直しを行っている。なお、状態変化や入退院があった場合には状況に応じて見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かした健康管理や点滴等の医療処置を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者は以前からのかかりつけ医を受診されている。受診時は基本的には家族同行としているが、不可能な場合は職員で対応している。なお、受診に係る情報交換が的確に行われるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や看取りに関する対応指針を定めており、家族に対して説明をし、意思確認も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に、入居者を敬い人格を尊重して支援に臨んでおり、言葉かけや対応も丁寧である。なお、職員は個人情報保護法を理解しており、秘密保持が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、何事も無理強いすることなく、本人のペースを尊重したその人らしい生活を支援している。起床時間や食事の時間、昼間の活動、入浴の順番、就寝の時間等柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下拵えや盛り付け、テーブル拭き、配膳、後片付け等入居者の力が発揮されている。なお、食事時には、職員も一緒に同じテーブルを囲み同じ食事を食べ、楽しい雰囲気づくりに取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後4時からの入浴としているが、希望があればそれに応じており、一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。入浴を拒否される場合には、気分転換を図ったり、職員の機転によって支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や趣味等を把握し支援している。大正琴や歌、生花、園芸、猫の飼育、食事の準備や片付け、洗濯物干しやたたみ等場面作りを心がけ支援している。中には、地域の俳句の会に出かけ俳句作りに取り組まれる入居者もおられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は日常的に食材等の買物や散歩に出かけられている。また、気候の良い時には日当たりの良いデッキでお茶を楽しんでもらい心身の活性化を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアが設置されており、施錠もなく自由に入りができる。職員は連携プレーによって入居者の行動を見守り、自由な暮らしの支援に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	連絡網や災害対策マニュアル等も作成されており、法人の年間計画に基き、消防署の協力も得ながら避難訓練等を行っている。しかし、今のところは地域の人達の参加や協力を得た訓練には至っていない。	○	特に夜間等は、職員だけの誘導に限界があることを踏まえ、近隣の人達の協力を得た避難訓練が実施されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量はその都度把握し記録している。献立は定期的に法人の栄養士にチェックしてもらい栄養バランスに配慮している。なお、入居者の体調等に応じ食物の形態にも工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内は天井が高く採光も十分で気持ちの良い環境である。夏期には、居間の窓側にはよしずを置き日差しを調節を行っている。居間や玄関等には、季節の草花を使った手作りのカレンダーや入居者が生けられた花等を飾り、安らぎのある環境作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に馴染みの深かったミシンやラジオ、整理筆筒、椅子、時計、置物、家族の写真や絵等が持ち込まれ、居心地の良い居室作りがされている。		